


オーストラリア連邦		首都	キャンベラ
 <p>南十字星を示す 5 つの星と独立したときの 7 つの州を意味する 7 条の光を放つ大きな星と左上にイギリス連邦を示すユニオン・ジャックが入っている。</p> <p>独立：1939/9/3 英国より 国連加盟：1945/11/1 政体：立憲君主制</p>	国の概要	国土	面積 774 万 1,000 km ² (日本の約 20 倍) オーストラリア大陸とタスマニア島からなる。大陸は東海岸に沿って海拔千数百 m の大分水嶺山脈が走る東部山地、大鑽井盆地の開ける中央低地、砂漠が多い西部台地の 3 つに分けられる。国土の平均高度はわずか 300m しかない。北東部の海はグレートバリアリーフとよばれる世界最大のサンゴ礁の群生する海域である。
		人口	2,070 万人
		言語	英語 (公用語)
		通貨	オーストラリア・ドル
		気候	東部山脈の海岸側斜面は季節風の吹く温帯湿潤気候で、南東部では偏西風の吹く西岸海洋性気候になる。南西部の沿岸は冬に降雨のある地中海性気候、北部の沿岸はサバナ気候である。内陸部はほとんどが砂漠気候で、ところどころにステップがみられる。世界で最も乾燥した大陸ともいわれる。
		民族	イギリス系 77%、イタリア系、オランダ系、ドイツ系、アボリジニ 2%
		宗教	英国国教会 26%、カトリック 26%、その他のキリスト教 24%
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育、初等・中等教育、第 3 次教育の 3 段階に分かれていて、分け方は州ごとに行われており、カリキュラムや休業日も異なっている。 例えばニュー・サウス・ウェールズ州や首都特別地域、ビクトリア州、タスマニア州では、初等教育 6 年、中等教育 4 年、第 3 次教育 2 年、の制度である。 ・クイーンズランド州、南オーストラリア州、西オーストラリア州、北部準州では初等教育 7 年、中等教育 3 年、第 3 次教育 2 年である。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は、原則 6 歳~15 歳となっている。(タスマニア州は 6 歳~16 歳) ・学区が決まっているわけではなく、地域で好きな学校を選択できるようになっている。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・公立学校は、男女共学である。 ・義務教育は無料である。
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は1月下旬(2月上旬)～12月中・下旬となっている。 ・州によって異なるが、4学期制を採っている(タスマニア州は3学期制である)。この場合、1学期は1月下旬(2月上旬)～4月中旬、2学期は4月下旬～6月下旬(7月上旬)、3学期は7月中旬～9月下旬、4学期は10月中旬～12月中・下旬、となる。 ・年間授業日は約200日で、土日は休みである。 ・学校は9時～15時半までで、15時半になると先生も含めて、学校にはだれもいなくなってしまう。 ・初等・中等教育のカリキュラムは州政府の所管であり、各学校の授業は、州政府のガイドラインに基づくが、国語、数学、科学、社会・環境、文学、保健、外国語などをカリキュラムに含めなければならない、としている。 ・学校の特色と興味を生かした授業も認められている。 ・国土が広いため、国や州では、都会から遠く離れたところに住んでいる子どもたちに遠隔地教育を行っている。教科書やプリントを郵便で送り、生徒もレポートを郵便で送る。また、無線などを使って、先生と話をしたり、質問をしたりできるようにしている。音楽やスピーチなどはカセットテープを利用する。インターネットも使われている。 ・連邦及び州政府は、アボリジニ及びトレス海峡諸島に対する教育にも熱心である。 ・中等教育学校に進むと必須科目以外に選択科目が設けられ、学年が進むにしたがって選択の幅が広がっていく。例えば、外国語、商業、芸術、音楽、農業、家庭科などがある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育の第10学年が修了すると義務教育修了書が授与される。 ・さらに、第11・12学年に進学して高等学校修了認定書を取得できる。 ・義務教育は満15歳(タスマニア州は16歳)までであるが実際には多くの生徒が引き続き11・12年生へと進学する(進学率は約75%)。 ・大学に進学するものは12年生を修了する時点(18歳～)

	<p>で統一高等学校資格試験を受験するが、この試験も州によって名称が異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、TAFE (Technical and Further Education) と呼ばれる機関もあり、コースによっては義務教育修了直後に入学できるところもある。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育は3歳~5歳の幼児を対象とし、プリ・スクールと呼ばれる就学前教育機関で週2~5日、1日あたり2~3時間程度行われている。州によってはキンディとかプリ・キンディと呼ばれる。 ・公立小学校の中にある「準備学級」(名前は州によって違う)が5歳児を受入れており、ほとんどの子どもが通っている。 ・ニュー・サウス・ウェールズ州では、5歳児の学年を「キンダーガーデン (キンディ)」と呼び、義務教育の最初の年としている。 ・共働き家庭の幼児のための保育所 (チャイルド・ケア・センター) もある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を母語としない子どもが就学しようとするときは、小学校であれば、英語に慣れるまでの間、IEC (Introductory English Class) と呼ばれる特別クラスで勉強してから通常の学校に編入する。中・高校になると、SIEC (Secondly Introductory English Class) と呼ばれる英語を集中的に教育するための特別クラスで約半年から1年間学習し、それから通常の学校に編入する。 ・学校内に ESL コース (留学生向けの英語特別授業) を設けている学校もある。 ・上級生が新入生の相談にのったり、学校の課題を手伝ったりして、新しい環境に慣れる手伝いをするバディシステムなどと呼ばれる制度を導入している学校もある。 ・ヨーロッパやアジアなどから多くの文化的背景を持った人々が集まる「多文化国家」であることから、多文化主義を反映した教育を行っている。 ・英語以外の言語教育を「LOTE」(Language Other Than English) という。移民が多く、全人口の25%がオーストラリア以外の国で生まれ、しかも英語を使わない国の出身者が増えてきているので、言語教育として、小学校から外国語が教えられ、日本語を学ぶ子どもも多い。

		<ul style="list-style-type: none"> ・教室などの掃除はしない。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・4月中旬～下旬のイースター休暇（1～2週間）、6月～7月の冬休み（2週間～1カ月）、9月～10月にかけての春休み（10日～2週間）、12月中旬～1月下旬または2月中旬の夏休み（40～50日間）がある。 ・長い休みの時期は州ごとに決められる。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は1クラス25人位が普通で、学級担任制であるが、選択教科（宗教・外国語・器楽など）は専科教員が行う。違う学年が一緒の教室で勉強することもある。 ・中・高校は、「自分の教室」というものはなく、授業のたびに教室を移動する。教科によって先生も変わり、授業は自分で選んで受けるので、教科によって生徒も変わる。 ・小学校の授業では、共通の教科書ではなく、先生たちが自分たちで作った教材を教科書代わりに使っている。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、国語（英語）、算数、社会、理科、音楽、図工、保健、体育のほか、選択教科として、異文化（宗教などを含む）、外国語、器楽などがある。 ・クラブ活動はない。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足、課外活動などは各学校に任されているので、頻度や種類などはまちまちである。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中にモーニング・ティーという習慣がある。子どもたちはそれぞれの家から持ってきた「おやつ」を食べる。先生たちも職員室でお茶を飲む。 ・給食は実施されていない。弁当（サンドイッチとりんご1個など）持参の子が多いが、サンドイッチ、ミートパイなどを販売する売店（タックショップ・カンティーン）もある。この売店はPTAのお母さんたちが手伝っているところもある。 ・おやつも昼食も教室内では食べることができず、校舎の外で食べる。
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数制クラスが基本で、先生が一方向的に教えるのではなく、生徒が中心となり、先生が指示したテーマについてディスカッションやプレゼンテーションを行ったり、レポートにまとめたりする。 ・授業は非常に静かに行われ、教室の扉は開放されているのに、他のクラスの迷惑になることはない。授業の妨げになる

	<p>言動をする子どもは迷わず廊下に出される。これは学習する子の権利をより大事にするからである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課外活動や野外授業が自然環境を生かした大きなスケールで行われる。 ・ 出席、欠席、遅刻、早退は記録され、成績表に記載される。 ・ 宿題は比較的多い。 ・ 靴のまま教室に入るの、上靴や靴箱はない。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの学校でも制服があり、それぞれの学校で季節に合わせて何種類か決められている。大抵が学校独自のポロシャツやトレーナーが多い。中にはTシャツをユニフォームにしている学校もあり、クラスでTシャツのデザインを決めているところもある。高校生になると、普段のトレーナーに加え、式典用のブレザーが制服に加わる。ブレザーは高価なので、式典の時だけ、生徒に貸すというシステムをとっている学校もある。 ・ 持ち物についても詳しく校則で決められている。 ・ 学校の決まりが多く、決められたルールを破ると罰をうけるが、子どもたちもルールについて納得しており、先生はその場の感情ではなく、ルールに沿って指導をするため、指導が横道にそれず、徹底するようである。 ・ トイレなどの生理的現象に関わることには、守るべきルールではないので、授業中に自由にトイレに行ってもよいことになっている。 ・ 名札はつけていない。 ・ 両親が認めたことはできるが、認めていないことはできない。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡を入れておけば授業参観も比較的簡単にできる。
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学はスクールバスか親による自動車での送迎が多い。 ・ 放課後は、バスケットボール、ネットボール、スケートボード、木登り、ボディボード、サーフィンなどで遊ぶ。塾に行く子どもはほとんどいない。しかし、近年、日本の塾やテレビゲームの人気の高まってきている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間には、防犯上の理由で教室に鍵をかけるため、子どもはみんな教室の外に出される。先生たちは休み時間にスタッフルームでお茶を飲んだり、お菓子を食べたりするが、

		<p>先生と子どもは立場が違うものだという認識がはっきりされているので、子どもたちが文句を言うことはない。当番の先生が子ども同士のトラブルがあったり、事故が起こったりしたとき現場を見ておく必要があるので、運動場の見回りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎内、校庭はそれぞれ掃除をする人がいるので、子どもたちは掃除の時間はなく、のんびりと昼休みを過ごしている。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習では、「う行」の発音が、巻き舌になってしまうことがある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしなければお小遣いがもらえないというギブアンドテイクの考え方からか、よく家の手伝いをする。欲しいものがあるときには、特にがんばっていろいろな仕事をするように、自分の家の中のみならず、近所にチラシを配って仕事を探す子もいる。高学年になると、ベビーシッターのアルバイトもしている。 ・夜 7 時半になると、テレビで「子どもは自分の部屋に戻りましょう」というアナウンスが流れる。 ・テレビ番組の始まる前に、「今から始まる番組は一般向けの番組です」「大人と一緒になら見てもいい番組です」「15 歳以上向けの番組です」というような説明がされる。暴力場面や過激な場面のある番組を小さな子どもたちに見せないためである。 ・「大人と子どもは違う」という考え方から、いろいろな規制が子どもを守っている。例えば、普通の本屋さんには大人向けの雑誌は置いてないし、町の中にタバコやお酒の自動販売機なども置いていない。 ・クイーンズランド州では日差しが強く、日焼け止めを塗っていないければ、外で遊んではいけないという決まりになっており、目を守るために子どもでもサングラスをかけて登校することになっている学校もある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社

- ・オーストラリアの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アルク
- ・パースの子どもたち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・元パース日本人学校教員 辻本紳一郎